

平成3年度 和歌山県文化奨励賞

なか せ ひさ はる
中 瀬 喜 陽

住 所：和歌山県田辺市
出 身 地：和歌山県西牟婁郡上富田町
生 年：昭和8年

◎業績及び経歴

県立田辺高校卒業後、古典文学の勉強を志し上京。書店に住み込みで働きながら、東洋大学文学部中国哲学文学科に学んだ。この書店で多くの知識人にめぐりあうが、特に作家花田清輝との交流を通して、文学の幅や深さというものを学んだ。

昭和35年帰郷し、上富田町立岩田中学校教諭を経て、昭和39年から県立南紀高校教諭の職につき、現在に至っている。

教職のかたわら、地方文化の研究につとめ、特に南方熊楠や弁慶研究をライフワークとしている。

南方熊楠研究は20数年余の取り組みで、熊楠の残した膨大な量の書簡の発掘と解読、地方新聞寄稿の論考の復元、関係者からの聞き取りなどを行い、「南方熊楠書簡・盟友毛利清雅へ」（編、S63、日本エディタースクール出版部）、「門弟への手紙・上松翁へ」（編、H2、同）、「南方熊楠アルバム」（共編、H2、八坂書房）、「父南方熊楠を語る」（共編、S56、日本エディタースクール出版部）、「南方熊楠独白」（編著、H4、河出書房新社）など、南方熊楠に関する基礎的資料を提供し、研究者のみならず一般の啓蒙につとめ、今日の熊楠研究の発展に貢献している。

一方、弁慶研究では、その説話的成長の基盤が熊野信仰にあることを多くの資料から浮かび上がらせ、その成果を「説話世界の熊野・弁慶の土壌」（著、H3、日本エディタースクール出版部）として発表した。

■現在

田辺市文化財審議委員
紀南文化財研究会理事
南方熊楠邸保存顕彰会理事
田辺市史編纂専門委員
県高等学校教育研究会国語部会副会長

■主な表彰歴

昭和55年 和歌山県教育研究奨励賞受賞